

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

はじめてのリモート法話



ユウコ先生は沖縄別院から、本堂にいる私たちにむかってお話されました。私たちは本堂にて、スクリーンに映し出された漢子先生から、ご法話をお聞かせいただきました。

コロナ禍での僧伽の役割

ひびき第九十六号で田畑正久先生に「新型コロナとどう付き合うか」ということでお話いただきました。その中で先生は、「コロナは昔の親戚であり、コロナと戦うというよりもコロナ騒動を通して何を学ぶかが大事」と教えられています。

幸いに大分県では、現時点で約一ヶ月感染者が出ておらず、今のところマスク・手指消毒・ソーシャルディスタンスなどの地道な対策が効を奏しているようです。お寺でも可能な限り対策を講じながら法要等の行事を行っています。しかし、どのような対策でもリスクがゼロになるわけではありません。コロナに限らず、人はこの世に生を受けた以上、老・病・死からは逃れられない存在ですから。日本人の歴史は、地震・洪水・飢饉・疫病に苦しんできた歴史でもあります。そういう中で真宗門徒は、そのことを仏法に出遇う縁として受けとめ聞法を続けてきました。

お寺は、どのような時代にあっても聞法の道場として御同朋・御同行が真宗の教えを聞き開いていく僧伽であり続けてきたし、その役割はコロナ禍においてもなんら変わることはないでしょう。

南無阿弥陀仏

釈和敬

(渡辺和義)

法要初日 — 秋季彼岸会 —

九月二十四日に行われた秋季彼岸会のご法話はコロナウイルス騒動のため、画面を通してのリモート法話で行いました。ご講師は昨年のお待ち受け聞法会でも来ていただいた齋藤先生。講題は「いのちとは何だろう」でした。

共に初めての経験でしたが、スクリーンを通して漢子先生の熱意がひしひしと感じられました。そのお話しをまとめました。参加者の感想を添えて紹介します。

◎「伝えたいことがあるなら、話したら」

リモートで法話をと言われたが、違和感があつて初めは断つたんです。ところが娘から「伝えたいことがあるなら、話したら」と言われ、お受けしました。

◎「いのちって何だろう？ 生きてるって何だろう？」

私達はどんな時代を生きているのだろうか。晴れ晴れとして豊かで安心して生きていく時代だろうか。これから生まれてくる子どもたちに、これでいいのだろうか。こんなことをずっと考えながら生きてきた。

◎「五濁悪世」、今まさにそうではないか。

私達が生きている時代は「平等施一切 往生安楽国」を目指

している社会といえるか。親鸞聖人がおっしゃった「五濁悪世」、今まさにそうではないですか。

◎「浄土とは何か」と聞いてきた先輩方がいた。

いつの時代も五濁の世でした。それでも人類がここまで生き延びてこれたのは、浄らかな世界を夢見て、浄土とは何か、国土とは何かと問い続けてきた先輩方がおられたからです。

◎真宗の教えは善悪でなく、「それは本当か、本当に生きていくか」と問うことだ

と聞いてとても嬉しかった。今から30年前、はじめてお寺に足を運んだ時、皆さんが正信偈をあげていた。意味もわからないのにナムアマミダブツという声に涙がこぼれた。そういう出

会いが今も自分を育て続けてくれている。

◎「戦争を前提とした平和なんていない」

親鸞聖人は「世の中安穏なれ、佛法弘まれ、兵戈無用」と仰つた。武器も兵隊もない国が安穏な国です、と真宗門徒は言い切らな、ならん。

◎「人間にとって一番大事な環境は人間です」

人と人が共に在り、一緒に生きていこう、時にケンカすることがあつても、その人の意見を尊重していこう、そういう社会であつて欲しい。



◎「思わず掌を合わさずにおれないような、そんな祈りこそが人間を人間たらしめる」。

三日前、朝の散歩の時、雲間に仏さまを見ました。欲張らず、それ以上のものを求めず、ありがたいなあ、それが南無阿弥陀仏でなろうか。

◎「死者と共に生きよう」。

死んでおしまいじゃない

何年も前からの私のメッセージです。私の中に死んだ人が生きています。私が死んでも、私を知っている人の中に生きています。死んでおしまいじゃない。死んでも伝えたいことがある。

◎「一緒に考えて欲しい」

今年の2月、電車に乗っていたら、初老の婦人達が、「中国人や韓国人がいなくなつて、本当の日本人だけになって良かった。」

*私は二年前に脳梗塞になり、左手足がマヒして歩けなくなっています。自分が障害者になり、差別を感じています。でも起ち上がっていく元気が今日見えてきました。

(T・M)

*日々問題提起される多くの時事問題、その時は強い思いに駆られても、やがて忘れることの繰り返し。在日韓国人という制約の中、生き生きと行動し、発信し続けている先生の今後の法話が楽しみです。(K・W)

ヨンジャさんのご法話を聞いての感想

*ヨンジャ先生のご法話は心にずしりと残りました。私達は無意識に言葉の暴力を発しています。自分が受けたらどうかを常に思つて、人を思

たね」と言っていた。若い時の私は「私は在日朝鮮人ですが、それはどういふことですか」と問い返す人間だったのですが、人間性を奪い取るような言動に出会うと、それを反面教師にして、自分を顧みることにしている。本当の日本人とは誰のことですか。一緒に考えて欲しい。私は、朝鮮人である前に人間でありたい。そう思つて生きています。(文責 渡辺重昭)

(N・W)

*「私の国籍は、浄土です」と宣言するヨンジャさんに誇らしさを感じました。(J・F)

(J・F)

法要二日目 — 永代経 —

二日目は、坊守さんが、昨年厳修した御遠忌のテーマ「親鸞さまなぜ お念仏なの？」にお応えしていくお話でした。

坊守さんは、ご自身の歩みを振り返りながら、自力で生きる人間の迷いの深さと、それ故にこそ、私たちにはお念仏がすすめられていることを、親しく教えて下さいました。

美しい声で仏教讃歌を歌いながらのご法話は聞く者の心にしみこんで参りました。

朝 榎本栄一

自分がどれだけ世に役立っているかより自分が無限に世に支えられていることが朝の微風の中でわかってくる

この歌を聞くと、母のことが想い出される。母は「純子、今年もお役に立てたよ」と喜ぶ人であったが、お役に立てなくなる日が来たら、どうなるのだろうかと思っていた。

自力をたのみ、自力を誇り、自力いっぱい生きてきた母だったが、母の中にあつた深い願いは、世に支えられているという安心感のもてる世界を求めているのだと思う。

お聖教に「蟬せみ、春秋を識らず」という言葉があります。ヒグラシは夏を知ってるつもりだが、実は夏も知らないんですよ。同じように、自分の外がわからなければ、自分もわからない。「他」という鏡そして「教え」の鏡があることとがとっても大事なんです。

「自分が…、自分が…」という自我関心の激しい意識生活者だったから、お念仏がどうしても必要だったのだと思います。

お育ていただいている崇信学舎の綱領には「この会は、身にひざまずくことを知る若者の集いである、心に明かりを求め若者の集いである、

世に和らぎを願う若者の集いである」とあった。この崇信学舎の初心は、私自身の初心でもあります。

生きる喜びばかりを求めるけども、死ぬ喜びというものもあると思う。「この身を与えられ、この身を生きることができてよかったな」、「いろいろな人に出会って、にぎやかに豊かな人生を送らせてもらえたな」、こういうのは死ぬ喜びでなからうか。



この身において表現される生老病死のすべては、今日まで来た永いのちの業道自然のすがたである。これを「わが身」と撰取不捨してください。魂の名を法蔵菩薩といい、南無阿弥陀仏というのだと教えていただいた。その御名に呼ばれつつ、その御名の心を我として身に従い、老病死の

旅をたどつていこうと思う。

このお寺に来て38年ほどたちますが、草も取らず、家中も散らかしたまま。もし、お念仏がなかったら、とても皆さまにお会いできないですよ。お念仏のおかげで、これが自分なんです、どうぞお付き合ってくださいと、お願いさせていただけます。

「ここは私の家」というように「執着」していくから苦しみます。その「執」の苦しみを解くのが仏教なんです。「私のもの」は、ない。もともと「私」なんて、ない。世界全体から生かされている私であつて、「私」があつて生きているのではないんです。

念仏は一如の智慧です。「駕籠かごに乗る人 担かぐ人 そのまた草鞋わらじを造る人」というこの世の差別の相すがたが、一如の智慧で浄土の景色として見るといいですね。お互いがあつてはじめて成り立っている世界。自分の役割を果たしつつ互いに「ありがとう」とねぎらう関係を開いて下さるお念仏です。(文責 香田・知道)

「法話を聞いての感想

*日々の思いをふわりとお話しくださり、私のかかえていることを「受け入れるのですよ」とそつと背を撫で、勇気づけていただけた気持ちです。(S・O)

*ご法話、胸に沁みました。特に「死ぬよろこび」。夫の最期は突然でしたが、ここで生き尽くしてお浄土へ迎えられたよろこびの笑顔でした。安んじて逝ける世界の恵まれている幸せを感じています。(A・W)

*「朝」、この歌を聞いた自分に感謝することを忘れていた自分だと恥ずかしくなります。お寺にお参りできてよかったなあと思つた。曼珠沙華の咲く道を帰りました。(S・W)

*始めから終わりまで「念仏申しましょう」と呼びかけられました。御名に呼ばれつつ、御名の心を我として、身に従い、この80歳の老いの身を大切に生きていきたい。(N・K)

*「こんなに私は一生懸命やっているのに夫は少しも感謝してくれない」と思っている私も、誰にも感謝していません。これからはお念仏申しつつ、自分を見失わず、大切なものを大切にして生きていきたい。(T・S)

勝福寺活動報告

お寺では何をしているのでしょうか。今号では、『ひびき96号』（7月1日発行）以降の三ヶ月の活動をご報告してみます。

7月1日 響流句会 7名
1年前に始まった素人の句会。

7月11日 手と手みらい hug キッチン
（代表・大村るみさん）60〜80名

日本中に広がっている「子ども食堂」ですが、この会では、食事ばかりでなく遊びも大切にして、親と子が交流し、すことを目指しています。勝福寺も会場提供というかたちで参加。子ども（高校生以下）無料 大人三〇〇円 毎月第二土曜日（8・9月はコロナで休止）



7月15日 コールハイマート 9名
宇佐組有志による合唱団。仏教讃歌を中心に練習し、法要等で発表。

7月17日 汝^{にょ}自^じ当^{とう}知^ちの会 12名
教えを聞き自己を明らかにしていくことを願うための研修会。本の輪読や聖典学習などを行っています。

7月22日 報謝の日 10名

婦人会有志による境内の清掃奉仕

7月27日 コールハイマート 12名

7月23日 新旧役員懇親会 18名
3年の任期を終えた総代会役員と婦人会役員の慰労と、新旧役員の懇親会をしました。最後は歌で盛り上がりました。



7月28日 御名^{みな}を聞く会 35名
毎月、28日の親鸞聖人のご命日に開催する聞法会。住職・坊守の法話の外に隔月で外部の講師にご出講いただきます。

講師 宮岳文隆師
講題 親鸞さまなぜ お念仏なの？
― 発遣と招喚の勅命―

8月2日 響流句会 6名
8月2日〜15日 お盆まいり
今年の初盆は10軒でした。

8月15日 平和の鐘を撞く集い約20名
終戦記念日の8月15日の正午に平和を願って四日市別院の鐘を撞いています。夜は渥美清主演の『あゝ、声なき友』を観賞

8月19日 四日市郷土史会 5名
門前町四日市の成り立ちを訪ね、郷土の歴史を記録していく学習会。



8月21日 富貴野の滝で水遊び 15名
新型コロナのため子ども会は中止。

かわりに希望者で半日、滝遊び。

8月28日 御名を聞く会 33名
講師 住職
講題 「寅さん映画の底流―彼岸と悲願―」

8月31日 宇佐組組会
二〇二〇年度予算審議
組費納入（二万八千円）

9月1日 響流句会 6名

9月5日 汝^{にょ}自^じ当^{とう}知^ちの会 11名

9月10日 ミンダナオ子ども図書館
勝福寺で支援しているノルハナさんに奨学金（年間6万円）を送付。今年もコロナのため、ミンダナオ子ども図書館の学生の来日は中止となり交流会はできなかつたが、古着を送りますので、よろしく。冬物古着は不可。カンパも歓迎。

9月11日 総代会常任委員会 10名
秋季彼岸会について協議。コロナ感染予防のため、初日の兪漢子さんはリモート法話。2日とも例年に比し簡略にすることを決定。

9月12日 はじめの一步 10名
テーマは「身近な仏事について」だが、日々の生活でふと疑問に思うことをみんなで話し合い、学ぶ会です。是非一度来てみませんか。

9月14日 コールハイマート 11名

9月15日 前住職命日 10名
毎年、前住職の命日に住職兄弟が

集まり、前坊守を囲んで会食。

9月17日 お磨き（総代有志） 9名
同日 四日市郷土史会 4名

9月20日 報謝の日 11名

9月21日 お花立て 3名

9月23日 九州教務所長巡回
本山御依頼金・教区費納入
（七四万二五七〇円）

9月24・25日 秋季彼岸会並永代経法要
詳細は二、三頁参照

9月28日 コールハイマート 13名

編集後記

初めて経験するリモートによる法話の聴聞、さぞかし大がかりな装置が必要ではなかるうか、と思っていました。それが、スマートフォンさえあれば、「えー」と思うぐらい簡単に出来ました。それも講師は聴衆の様子を見ながら話すことが出来、質疑もできるとは！とてもびっくりした彼岸会でした。
渡辺 重昭

10月 御名を聞く会

講師 川島弘之師（茨城県・元教師）
講題 「いのちのコール」
日時 10月28日午後一時半
会費 千円
ZOOMで配信します。
ご希望の方はお知らせください。